



▲廃校後の有効活用が待たれる播磨北小学校

北小廃校後の施設活用は

答弁 = 19年度に具体的運営を策定

① 施設方針では「播磨北小学校の廃校後の施設は、社会情勢の変化や住民ニーズに対応した地域づくりの拠点、交流の場となるよう、幅広い住民や団体の参画と協働による協議組織を設けて、具体的な運営プログラムを策定します。」と述べられています。

② 現在の住民への負担や後世への負担の先送りとは、③ 「07年を皮切りに多くの団塊の世代が我町に帰ってきます。」とあるが、人材資源の活用を図るとは、④ JR土山駅南地区の整備における整備に対する基本的な考え方、「フロンティアはりま」との調整は。また、医療施設の誘致とは、⑤ 行政改革集中改革プランに積極的に取り組むとは。



住民クラブ代表

浅原 利一

答弁 = 清水町長

① 公募住民、各種団体代表によるワークショップでは学校施設の利用可能な機能について、様々な分野からの意見、提言をいただきました。また検討委員会ではワークショップでの意見や提言、アンケート調査による意見などについて、実現可能なものとするため、求められている導入機能の整理、施設活用にあたっての前提条件、活用方針や施設の運営方針について検討していただいています。

平成19年度には、実際の運営にあたり利用しようとする団体や個人、公募による住民や行政職員で構成する協議組織を設けて、この提言に沿った形での具体的

な運営の仕組みづくりを策定することとしています。

② 過去の蓄えである基金を取り崩したり、特定の受益者に対して一定の追加負担を求めることも必要。

③ 知識、技能や経験がまちづくりを生かせる活躍の場や機会づくりを考える。

④ 安全、安心のまちづくりを推進していくため、医療機関を誘致する。複合交流センターについては、情勢の変化により見直し、「フロンティアはりま」などの関係者に理解を求めていく。

⑤ 使用料・手数料については19年度に見直し、効果的な事務運営を行う組織についても検討する。

また、事務事業について「計画・実施・評価・見直し」のサイクルで検証し、行政サービスの向上に努める。



▲一日も早い実施が望まれる中学校給食

中学校給食の実施時期は

答弁 = 平成19年度も調査検討



公明党代表

宮尾 尚子

私どもは中学校給食が実現するよう最大限の努力をして来た経緯がある。

町長の施設方針では、食育や子育ての観点から、中学校給食についての調査をすると言われたが、当時の教育委員会では、私どもの質問を受け、すでに調査、研究はなされていたし、結果は出ているはず。

これ以上どのような調査をされるのか、実施するとして何年度を目標としているのか、明確にお示しただきたい。

ている。平成19年度は、栄養や財政面を考慮し、調査検討をする。

スポーツなどの表彰は

中学生におけるクラブ活動などは、色々な取り組みがなされているが、播磨中学校では柔道部さえもない。そこで学校のクラブには属さずとも個々に様々な分野に秀でて活躍している学生の存在を聞いている。

それらの活躍がクラブ活動の範囲ではないために高校受験時の内申書に記載されなかったというような事はないのか。また、スポーツや芸術での町独自の表彰制度を作るべきでは。

答弁 = 松田教育長

平成18年6月の質問では、前教育長は「選択制弁当給食」の導入などを検討したいとお答えしている。

同年9月においても質問をいただき、時代の要請により多くの保護者から実施の要望があることを認識し

情報収集はできている

調査し実証運行を

答弁 = 清水町長

中学校では定期的にアンケート形式で調査し、それ

まず、住民意向の把握のため、アンケート・人口調査や需要予想を行う。

また、「地域公共交通会議」を設置し、運行ルート、運賃などの検討を行い、早い時期に実証運行をしたいと考えている。

コミュニティバス導入は

「コミュニティバスの導入については多くの住民の願いとするところです。」

以前、稲美町が路線バスの運行を実現させたが、半年で挫折し運行を中止した経緯がある。わが町ではどのようにされるのか。

を内申書に盛り込んでいる。中学生の多種多様な才能の情報収集は、ほぼできていると考えている。

スポーツの表彰に関しては選考基準が明確だが、芸術に関しては統一した選考基準がないため難しい。

これまでも町広報で紹介しており、今後もそうする。